

「障害者基本法」,「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」の成立などに見るように,精神障害者のリハビリテーションが変わりつつある。リハビリテーション医療に関わるものとして精神障害者リハビリテーションの現状と今後の方向について理解することは重要である。今回は精神障害者のリハビリテーションに長年取り組まれている先生方に精神障害者のリハビリテーションに関する制度,方法論,病院・地域の現状,などのテーマでまとめていただいた。各筆者が疾患と障害の関係についても指摘しており,興味ある内容となっている。

■ 精神保健に関わる制度はどこまで来ているか

筆者は日本の精神保健において指導的役割を果たしてきた方である。このような業績に基づいてこれまでの精神保健制度の変遷,問題点を的確に示している。精神障害の意味,症状固定の概念,福祉的援助で留意すべきこと,など精神障害者のリハビリテーションを考えるうえで非常に重要な問題・言葉を明快に論じている。(渡嘉敷暁氏, 599 頁)

■ 精神障害者リハビリテーションの基本的問題は何か

Shepherd G の総説を参考にしながら精神障害者のリハビリテーションの現在抱える問題点を指摘する。問題をとらえる立場は精神障害者の精神的問題と社会的問題の相互の影響を動的に把握することである。この立場から,症状と生活能力の区別の必要性,治癒より適応の重要性などを述べ,「新たな長期入院患者」のケアの方策を提起する。(伊勢田堯氏ら, 607 頁)

■ 精神障害へどのようなアプローチをすべきか

精神障害に対するアプローチの基本を,地域生活への定着を想定したリハビリテーション,患者に応じた多様な方法,物理的・社会的環境も重視したリハビリテーションにおいている。症例を適切に提示しながら難しいテーマについて具体的にわかりやすく説明し,精神障害への対処の基本戦略を論じている。(安西信雄氏, 613 頁)

■ 精神病院の現状はどうなっているか, 問題点は何か

精神病院でのリハビリテーションについて低い技術評価などの制度上の問題点,精神病院ユートピア論,パターンリズムによる施設内への囲い込みの問題など,精神病院でリハビリテーションを進めるうえでの障害に触れ,長期入院の実態やリハビリテーション施設の状況などリハビリテーションの現況を述べている。精神病院の置かれている状況と今後の課題が十分に浮き彫りとなっており,精神病院でのリハビリテーションを理解するうえで有用であり,参考になる論文である。(飯島壽佐美氏, 623 頁)

■ 地域精神保健の現状はどうなっているか, 問題点は何か

地域での精神保健の現状と問題点について「ブラリ開放の時代」「アパート退院の時代」などわかりやすい表現を用いながら地域精神保健の変遷を種々の側面から分析している。わが国の地域精神保健の問題点については精神病院改革の問題,格差の問題,囲い込みの問題など適切な指摘を行っており,直接地域精神保健に携わらない人にもわかりやすく参考になるとと思われる。(田原明夫氏, 629 頁)